

## 今年度の現場点検を終えて（2019年度）

今年度の海洋工事現場の現場点検において、点検委員が注目した対策等がありますので下記のとおり紹介します。

### 記

#### ○ 警戒船の乗船者確認

港則法等の工事許可申請書に添付する警戒船の乗員については、申請済の者が乗船していることが求められますが、配乗者の都合により申請済以外の者が乗船し問題となる事例があります。これを防止するため、この現場では、乗船者交代時に船長と次直者がともに映った写真メールを受け取ることで確認しています。

#### ○ 携帯型落雷感知器の現場事務所への配布

海洋工事は、天候、海上模様に左右されるため、いずれの現場も多くの気象情報を入手し、適正な判断のもと作業を実施するとともに、現場には、風速計、吹き流し、乾湿計等を設置し現況を把握しています。しかし積乱雲に伴う発雷は、直撃雷、側撃雷、海面への落雷による感電による人命への危険性を著しく高めるため、早めの退避が求められます。この現場では、発雷情報を入手するため、携帯型落雷感知器を現場事務所に置いています。この感知器により、積乱雲の発達、接近を早期に入手し、事前の作業中断により、強風（竜巻）、強雨による被害の防止とともに落雷による災害防止を図っています。

#### ○ 緊急事態の体制

全ての現場で緊急連絡体制を定めていますが、発生事態により連絡先が若干異なることがあります。この現場では、労働災害と自然災害に対する連絡体制を別個に作成して混乱を防止し、適切な連絡を確保しています。また、作業員に連絡体制を認識させるため、工事現場で発生する可能性がある事例（落水、油流出防除、津波等）を想定して、複数の訓練を別個に行い現場の危機意識を高めています。

○ レーザー測距儀による検収作業

ガット船等からの材料砂等の受け入れ時の検収作業は、通常、計測尺等を使用しガット船等の上を移動して検収作業を行いますが、貨物艙への転落、揚貨装置その他構造物との接触等の危険性が伴います。この現場では、揚貨装置から離れた安全な場所からレーザー測距儀を使用して距離を測定し、受け入れ量を算出しています。更に、データを事務所に伝送して計算を行うことで、貨物艙周辺での移動と滞在時間を少なくする取り組みを行い、検収作業時の安全性を高めています。

○ スマートホンやタブレットによる日々の作業間連絡調整会議の実施

建設現場では、安全衛生責任者（職長）等を集め、作業間連絡調整会議を行いますが、特に海洋工事現場は、事務所と現場間が離れていることが多いため、安全衛生責任者（職長）はその間現場を離れることとなります。この現場では、スマホ、タブレットの通信機能を使用して作業間連絡調整会議を実施することで、安全衛生責任者（職長）の施工現場不在時間を少なくし、現場管理の充実を図っています。

○ 残コンクリートシートの設置

残コンクリートは、産業廃棄物として適正に処理するため、業者引き渡しまでの間、現場内に保管場所を確保して管理しています。この現場では、この間の残コンクリートによる土壌のアルカリ汚染等を防ぐため、底面のシートを設置した後に保管しています。ひと手間かかりますが環境意識の高い環境対策です。